令和4年度　環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：公益財団法人八木町農業公社

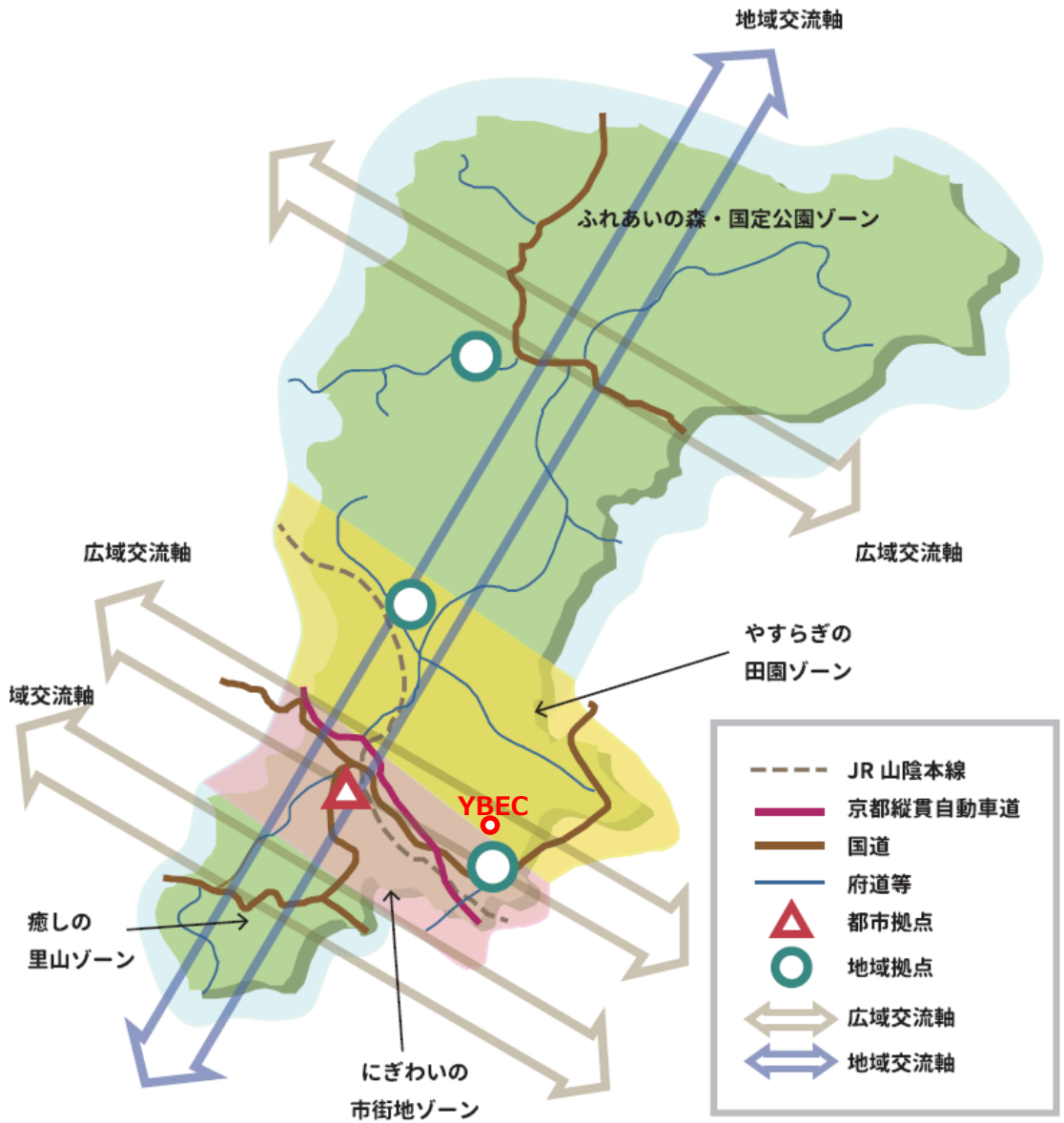
活動地域　：南丹市、京都市、亀岡市、京丹波町

活動におけるテーマ
『地域にあるものすべてを生かす』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

将来のまちのすがた構想図　　南丹市総合振興計画



京都府南丹市

平成18年1月1日に園部町、八木町、日吉町、美山町の合併により誕生
人　　口：３０，５９７人
世 帯 数：１４，２２４戸（R4.4.1現在）
面　　積：６１６ｋm^2（京都府の13%）

家畜排せつ物

主に南丹市八木バイオエコロジーセンター（YBEC）で、たい肥化及びメタン発酵、その他地域ではたい肥化

食品廃棄物

食品工場（誘致企業）の豆かす・廃豆乳等はYBECで処理し、廃食用油は市民環境団体等の啓発により、レボインターナショナル社が回収、精製

下水汚泥

船井郡衛生管理組合が収集・処理し、し尿処理施設にて焼却処理及びたい肥化

木質バイオマス

日吉町森林組合、美山町森林組合で計画的に利用され、木材チップを木質バイオマスボイラを設置した宿泊施設へ供給

活動団体と地域の紹介

- 公益財団法人　八木町農業公社は、畜産環境の改善並びに地域特産物の育成など、農業と畜産業が渾然一体となった地域農業の確立をはかり、農業・農村の資源を最大限に活かした「農業振興の町づくり」を推進すると共に、農林業の大切さや環境問題を学び、地域社会の健全な発展をはかることを目的として、平成9年に設立されました。URL　http://himuronosato.jp

- 南丹市八木農村環境公園「氷室の郷」　　南丹市八木バイオエコロジーセンター

- 農園イチゴ収穫　地域特産品販売　　バイオガス発電　　メタン消化液肥散布

現時点の地域版マンダラ

関連が深く、多方面の連携が必要

液肥の課題・資源・取り組み

地域の課題・資源・取り組み

地域課題

- 液肥の認知度の低さ
- 液肥の利用技術・利用方法
- YBECの未利用液肥の処理コスト
- 高齢化・担い手不足
- 鳥獣被害・耕作放棄・・

地域資源

- 廃棄物を肥料化できる施設（YBEC）
- 他のバイオマス（もみ殻・稲わらetc..）
- 有機質肥料
- バイオガス
- 農地・特産物
- 移住者・就農者
- 観光資源・自然資源
- 鳥獣被害・耕作放棄・・

とりくみ

- 手順書の作成・利用モデルの確立
- 液肥ステーションの設置
- 液肥の品質向上
- 散布技術・利用方法の改善
- 液肥利用農産物認証制度の創設
- 液肥利用で排水処理電力削減
- イベントやPR事業
- 人材育成
- 液肥農産物の学校給食での使用

担い手（支援者）

- JA京都JA京都中央 JA京都市
- 畜産農家 食品会社
- 京都市・南丹市 亀岡市・京丹波町
- 市民 消費者
- 担い手農家
- 液肥利用協議会
- 若い農業者組織
- 大学・研究機関
- 金融機関

目標

- 液肥の全利用
- 農業のコスト削減
- 野菜や家庭菜園での液肥利用
- 廃棄処理コストの削減
- 余剰電力熱周辺地区へ供給
- 環境負荷の低減
- 液肥利用のモデル地区へ
- 就農人口の増加
- 液肥農産物のブランド化・知名度アップ

ありたい未来

- 持続可能な農業・畜産業
- 資源・経済の循環
- 農業で生計が立てられる地域
- 農地の保全
- 地域電力による持続可能電気
- エコツーリズム 食・体験型観光

地域の産業や自然資源、それにかかわる人などすべての資源を生かす地域

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して解決したい地域の課題

①液肥が有機肥料として認知されていない。
②南丹市土づくり事業補助金が、液肥利用の水稲も対象になったことが、知られていない。

③液肥利用方法・効能・施肥設計等手順書の作成普及拡大が必要

④畜産農家の増頭や食品工場の廃棄物受け入れ要望があるが、YBEC施設増強を行わないと困難。

⑤YBECバイオガス発電の2021年11月5日でFITが終了する為、売電価格が廉価になり、施設運営(収入)に影響する。

⑥地域内発電している、太陽光・水力発電が地域外の利用となっているので、地域電力会社の設立で、バイオガス発電を含み自然エネルギーの南丹市域内利用の構築が求められる。

地域のありたい未来

①液肥栽培農産物認定制度を構築・運用し、液肥利用拡大の槓桿にする。

②液肥栽培農産物の販売拠点整備及びネット販売(ECサイト付きHP)を行う。

③液肥栽培農産物を取り扱ってくれる新たな企業・団体を発掘する為、異業種交流・連携を図り、普及販路開拓を行う。

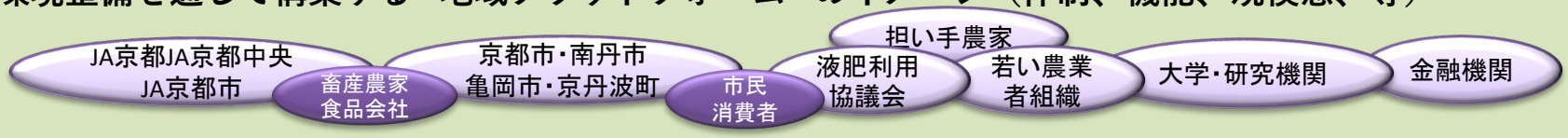
④液肥栽培農産物を南丹地域ブランドから京都ブランドまで成長させて、有機液肥栽培農産物をグローバルブランドとして輸出を行う。

⑤液肥栽培農産物を通じた、地域の伝統的な食文化の保護・継承を推進するため、団体・個人等の募集(掘り起こし)し、郷土料理振興を図る。

⑥バイオガスプラントを核とした資源循環型農業と農産加工やツーリズムを関係づけるワークショップ等を実施する。

⑦YBECはFITが2021年で終了し、発電機を含む周辺機器の維持費が確保できない売電価格にあるため、再生産可能な制度設計及びバイオガス利用のイノベーションを求め、大学研究機関・プラントメーカーとの連携強化で、FS・実証研究を実施する。

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）



想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- 廃棄物を肥料化できる施設（YBEC）
- もみ殻・稲わらetc.. 他のバイオマス
- 有機質肥料
- バイオガス
- 農地・特産物
- 観光資源・自然資源
- 移住者・就農者

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月　1年後の地域プラットフォームのイメージ

① 液肥栽培農産物認定制度を構築・運用し、液肥利用拡大の槓桿にする。

② 液肥栽培農産物を取り扱ってくれる新たな企業・団体を発掘する為、異業種交流・連携を図り、普及販路開拓を行う。

③ 液肥栽培農産物を南丹地域ブランドから京都ブランドまで成長させて、有機液肥栽培農産物をグローバルブランドとして輸出を行う。

④ 液肥栽培農産物を通じた、地域の伝統的な食文化の保護・継承を推進するため、団体・個人等の募集(掘り起こし)し、郷土料理振興を図る。

⑤ 以前行った意識変化調査(学生)でバイオマス利用に関心なかった者が、ワークショップで地場産の農産加工に関心が大きくなっていることから、バイオマス利用と地域農業をセットにした現地学習の重要性が指摘された。両者を関連付けて地域発展の核として認識できるようになる実感機会の創出が必要であるため、南丹地域循環共生圏づくり協議会をコアに充実発展させる。

⑥ バイオマス利用は現地研修で高い関心に至るが、それが必ずしもYBEC視察者の事業活用や学生のインターンシップに直結していない。現場で自身が行う業務や研究課題との関連性を想像しづらいことが反映しているものと考えられる。農産加工やグリーンツーリズムは、研修での体験と直結してイメージが作りやすいことから、バイオガスプラントを核とした資源循環型農業と農産加工やツーリズムを関係づけるワークショップ等を実施する。

⑦ YBECはFITが2021年で終了し、発電機を含む周辺機器の維持費が確保できない売電価格にあるため、再生産可能な制度設計及びバイオガス利用のイノベーションを求め、大学研究機関・プラントメーカーとの連携強化で、FS・実証研究を実施する。

←新たに加わってほしいSH（ステークホルダー）

- 若い農産等加工グループ
- 農業者農家団体
- 新規就農者
- 教育委員会
- 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(国土交通省)

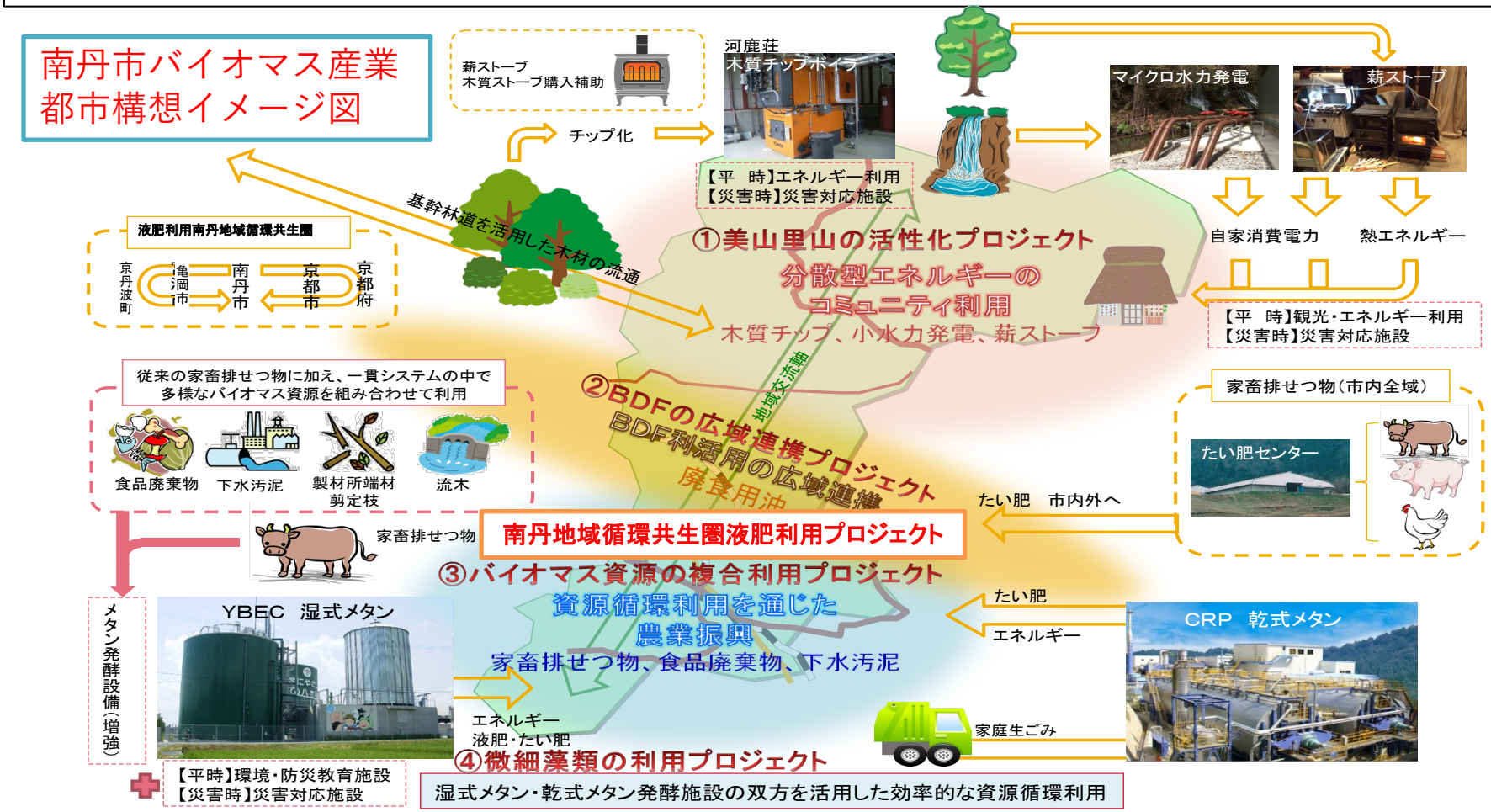
←想定している課題・阻害要因

- 農家に使い易い液肥利用マニュアル作成
- 液肥濃度が薄く、固形分で目詰まりする。
- 液肥利用の有効性が限られた範囲に止まっている。
- 有機液肥栽培農産物の認知及び販売ルート未確立
- YBECはFIT39円/kWから10円/kWと廉価でバイオガス発電が厳しい

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

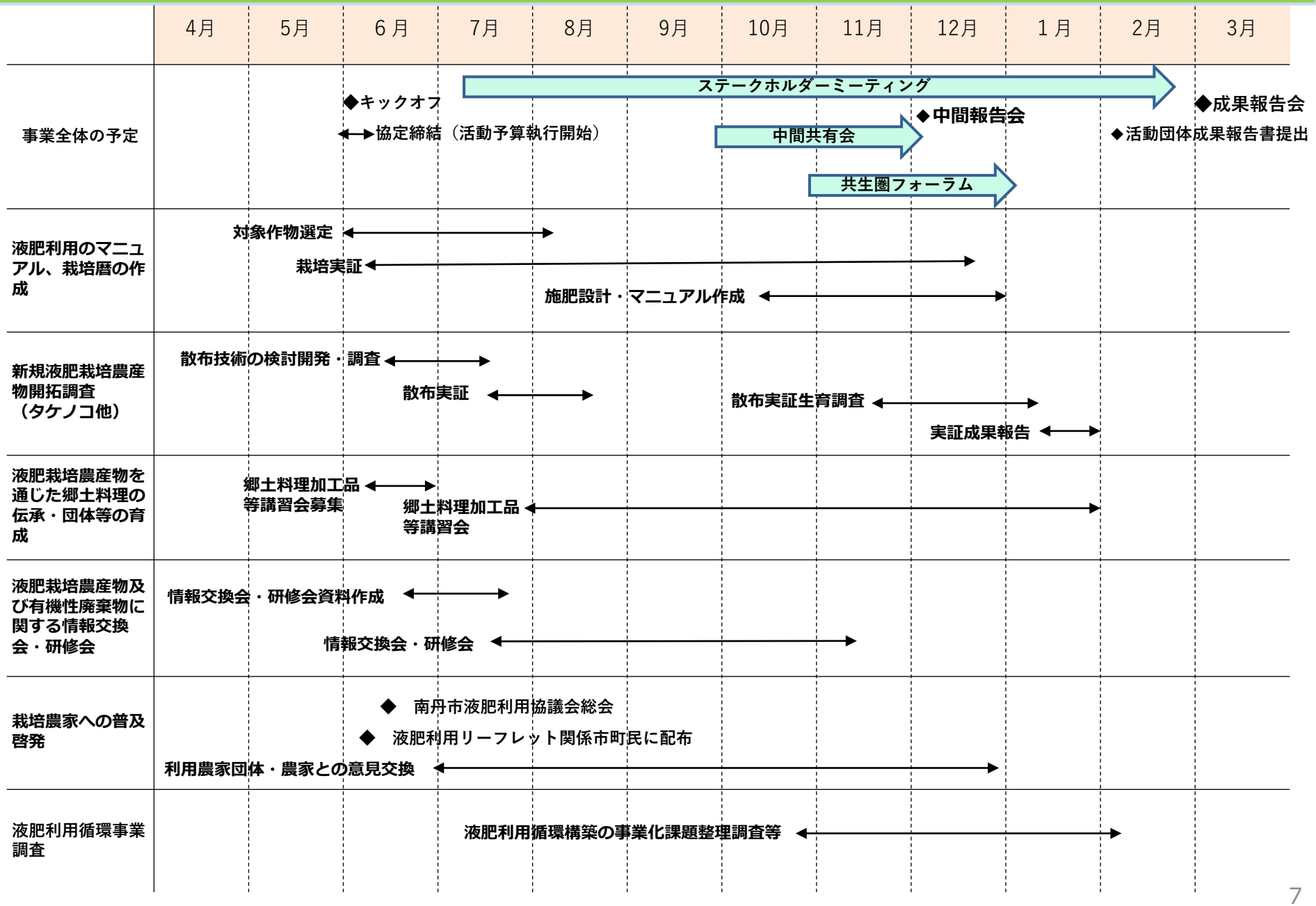
①液肥利用を通じて地域の物すべてを生かす　②持続可能な産業活動と暮らし



今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- 事業化に向け課題整理及び実証調査からの液肥利用評価
- 液肥の理解醸成とステークホルダー間の連携
- コア団体を構成するステークホルダーの意見・情報を引出し、新たな展開方策を構築

年間スケジュール


4月
5月
6 月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1 月
2月
3月
事業全体の予定
ステークホルダーミーティング
◆キックオフ
◆成果報告会
◆中間報告会
協定締結（活動予算執行開始）
中間共有会
◆活動団体成果報告書提出
共生圏フォーラム
液肥利用のマニュアル、栽培暦の作成
対象作物選定
栽培実証
施肥設計・マニュアル作成
新規液肥栽培農産物開拓調査（タケノコ他）
散布技術の検討開発・調査
散布実証
散布実証生育調査
実証成果報告
液肥栽培農産物を通じた郷土料理の伝承・団体等の育成
郷土料理加工品等講習会募集
郷土料理加工品等講習会
液肥栽培農産物及び有機性廃棄物に関する情報交換会・研修会
情報交換会・研修会資料作成
情報交換会・研修会
栽培農家への普及啓発
◆ 南丹市液肥利用協議会総会
◆ 液肥利用リーフレット関係市町民に配布
利用農家団体・農家との意見交換
液肥利用循環事業調査
液肥利用循環構築の事業化課題整理調査等